

特集にあたって

在宅医療の実践者から、
「在宅医療の始め方」を学ぼう

企画・構成 遠矢純一郎 Toya Junichiro

(医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック院長)

今後ますますニーズの拡大が予想される在宅医療ですが、ここ数年、在宅療養支援診療所の数は減少傾向にあるという結果が出ています¹⁾。「経験のなさ」や「カバーすべき領域の広さ」「24時間対応への不安」などが影響していると思われそうですが、実際にはさまざまな工夫や地域との連携で解決できる要素も少なくなく、理解が深まればそのハードルも小さくなるだろうと考えます。そこで今回はさまざまな地域やセッティングにおける在宅医療実践者からの経験談を中心とした「在宅医療の始め方」をまとめたという企画を立てました。

それぞれの在宅療養支援診療所における工夫やノウハウ、地域とのチームづくりに、在宅医療や地域連携におけるポリシーやマインドが反映されています。今回は、疾病管理や診療スキルではなく、在宅医療の診療や院内のマネジメント、地域の多職種との連携などをテーマとして、患者の在宅療養の始まりから終わりまでを支えることの実際を学べるような内容を目指しました。また今後もうひとつの、そして現実的な在宅医療の担い手として期待されている「在宅療養支援病院」についても取り上げ、先行している病院での事例や在宅開始までのプロセスなどを共有してもらいます。

これらを学ぶことで、在宅医療未経験の開業医や病院医の方々のみならず、すでに在宅医療に携わっている方々においても、より良質でスムーズな在宅医療の実践のヒントとなり、地域医療の担い手としての面白さややりがいがいさらに向上されることを期待しています。

▶文献

- 1) 在宅医療(その1)について；在宅療養支援診療所の届出数の推移と診療状況。中央社会保険医療協議会総会(第343回)資料(平成29年1月11日)，2017。
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000155814.pdf>